

コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

活動地域・団体名：佐賀県鹿島市・鹿島市ラムサル条約推進協議会

今後地域の将来像を実現するために取り組む事業を3つ書いてください。

1 事業名称：肥前鹿島干潟基金増額プロジェクト			
事業概要	事業の内容		現時点で想定される課題・ボトルネック
<p>有明海の実環境保全の資金を獲得するため、既存のラムサルブランド認証品の販路拡大と、市内事業所への直接売り込みを行う。</p> <p>この認証品が流通することにより、人々の有明海への関心が高まり、さらなる保全活動の活発化が期待される。</p> <p>その他、市内飲食店に対し、売り込みと1%寄付の協力をお願いする。</p> <p>この事業の成功事例を作り、事業者の自発的なプロジェクトへの参加を目指す。</p>	①なぜこの事業をやるのか (Why)	有明海環境保全のための資金が必要なため	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラムサルとは？からの説明が必要</li> <li>成功事例を作ること</li> <li>1%寄付に協力してくれる飲食店を探すこと</li> <li>直接売り込みに行く方法（卸値の設定）</li> </ul>
	②どの地域資源を活用するか	ラムサルブランド認証品	
	③商品・サービスの具体的な内容は何か (What)	有明海産物・肥前鹿島干潟ラムサル米・柑橘類	
	④誰がこの事業の主たる担い手か (Who)	ラムサル条約推進協議会・佐賀銀行	
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか	資金の循環（ラムサルブランド認証品の販路拡大⇒PR活動により宣伝効果↑⇒売上増⇒売り上げの一部が基金へ入る⇒有明海保全に活用⇒成功事例を見て協力者が増える⇒購入者が有明海に意識を向ける⇒環境保全につながる）	

2 事業名称：汚泥有効利用施設活用 国交省との地域活力向上計画とのコラボ			
事業概要	事業の内容		現時点で想定される課題・ボトルネック
<p>・事業所にディスポーザを導入し、汚泥有効利用施設を活用することにより、今まで焼却していた生ごみの残渣・規格外農作物を堆肥として再利用し、CO2削減につなげる。また、その堆肥によってできた作物はラムサルブランド商品として、都市部へ流通させ、「肥前鹿島干潟」のPRと有明海保全のための資金を獲得する。これにより、豊かな海・豊かな生態系を維持することができる。また、ディスポーザを導入した事業所は環境に配慮した事業所をPRすることができ、企業誘致の際にも強みになる。</p> <p>・下水道事業と連携することで、今まで難しかった産業界との共存が可能になる。また、下水道の方から企業に説明してもらうことで、企業の理解度、協力度が上がり、ラムサル条約に対してプラスのイメージを持ってもらうよう働きかけができる。</p>	①なぜこの事業をやるのか (Why)	下水道事業とのコラボ。農協が毎年処分困っている規格外農作物を	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディスポーザで流れるドロドロになった生ごみを浄化センターでうまく処理できるか</li> <li>浄化センター周辺農家の住民感情</li> <li>産業界の連携を行うために、多数の関係者の協力体制を構築できるか</li> </ul>
	②どの地域資源を活用するか	規格外農作物（主にタマネギ、ミカン）・食品加工業者の生ゴミ残渣	
	③商品・サービスの具体的な内容は何か (What)	②をディスポーザでどろどろにし、浄化センターを経由したあと、有明海に流す。今後汚泥有効利用施設が建設されたら、この汚泥を堆肥化する。それを農協で使用してもらう。	
	④誰がこの事業の主たる担い手か (Who)	環境下水道課・農協	
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか	タマネギ残渣が堆肥へ⇒CO2削減 and 農協は処理費が浮く⇒この堆肥を使った作物を売る⇒売り上げの一部が基金へ入る⇒有明海保全に活用	

3 事業名称：エコツアー開催			
事業概要	事業の内容		現時点で想定される課題・ボトルネック
<p>・エコツーリズム開催や、干潟交流館の活用による干潟の利用拡大（観光・産業）</p> <p>・環境教室や環境教育プログラムの実施により、環境や干潟への意識が高く、郷土を誇りに思う若者が増える。⇒若者の流出への歯止め⇒若者の雇用創出（企業誘致・すみよいまちづくり）</p>	①なぜこの事業をやるのか (Why)	有明海への関心を取り戻す	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟体験者が多いが、宿泊施設がない。⇒お金があまり落ちない。</li> <li>シーズンオフの観光客の呼び込み⇒直接干潟に入ることできない時期のプログラム</li> </ul>
	②どの地域資源を活用するか	有明海の干潟	
	③商品・サービスの具体的な内容は何か (What)	干潟の利用	
	④誰がこの事業の主たる担い手か (Who)	道の駅鹿島	
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか	交流人口の増加⇒雇用の拡大⇒基金の増加	